

コレクション企画展

没後100年

富岡鉄斎

鉄斎と
文人書画の
優品



富岡鉄斎(富士山麓麓路図)
明治8(1875)年
山梨県立美術館蔵

2024.7.20(sat)-8.25(sun)

開館時間/午前9:00~午後5:00(入館は午後4:30まで)

休館日/月曜日(8月12日は開館)

観覧料/一般:520(420)円、大学生:220(170)円*()内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引料金

*高校生以下の児童・生徒は無料(高校生は生徒手帳持参)

*65歳以上の方は無料(健康保険証等持参)

*障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料

[コレクション展観覧料をご覧ください。](#)

主催/山梨県立美術館



種をまく 世界がひらく

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art

コレクション
企画展

没後
100年

富岡鉄斎

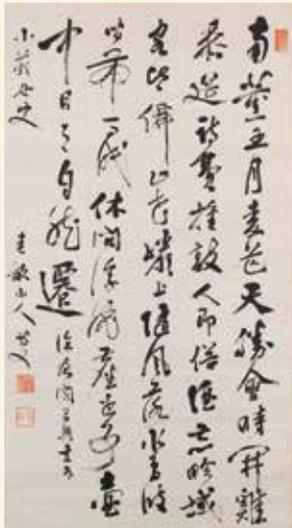
鉄斎と文人書画の優品

2024.
7.20(sat)-
8.25(sun)

本年は、“最後の文人画家”と称される富岡鉄斎(1836~1924)が、大正13(1924)年に没して100年にあたります。鉄斎は、山梨の豪商「十一屋」野口家との親交が深く、明治8(1875)年には、甲府柳町の野口邸を拠点に生涯で唯一の富士登山を行いました。登頂から間もない時期に野口家の当主、正忠(号、柿邨)のために描いた《富士山巔麓略図》は、鉄斎の富士山画の中でも初期の代表作とされています。その他にも、数多くの作品を野口家のために描き、現在、野口コレクションとして当館へ寄贈、または寄託されています。

一方、野口家は、文人画(南画)家の作品を収集し、現在も数多くが伝えられています。与謝蕪村、谷文晁、椿椿山ら大家の作品をはじめ、正忠がパトロンとして交流した日根対山、貫名海屋、中西耕石ら、そして野口家へ嫁ぎ、後に近代を代表する南画家となった野口小蘋など、江戸後期から近代にいたる文人画(南画)を概観することができます。さらに同コレクションには、野口家と交流のあった文人たちの書の優品も伝わっています。

本展では、これら野口コレクションにあわせて、当館の収蔵する山梨ゆかりの近代南画を紹介することで、鉄斎をはじめとする豊かな文人の世界を堪能していただきます。



伊藤博文《七律詩》明治時代
寄託(野口コレクション)



野口小蘋《老松凌霄花図》明治32(1899)年
山梨県立美術館蔵



谷文晁《水墨山水図》文化5(1808)年
山梨県立美術館蔵



富岡鉄斎《十六羅漢図》明治29(1896)年
山梨県立美術館蔵



ジャン=フランソワ・ミレー《種をまく人》

コレクション展(レイ館)テーマ展示室、萩原英雄記念室もご覧いただけます。



ホームページ



種をまく 世界がひらく

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art

〒400-0065 甲府市真川1-4-27 Tel: 055-228-3322 Fax: 055-228-3324
https://www.art-museum.prefyamanashi.jp/

○交通のご案内

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

●料金を昇仙峡・諏訪方面へ出て200m先を左折、西条北交差点を左折、アルプス通りを約2km直進、真川交番前交差点を左折、国道52号を約1km、左側。

JR中央本線甲府駅より

●JR甲府駅/バスターミナル(南口)1番乗り場より、39系統 御勅使、03・04系統 竜王駅經由敷島営業所、35系統 大草經由韮崎駅、30系統 真川団地各行き
のバスで約15分、「山梨県立美術館」下車。
※山梨県立美術館ホームページからも、バスの時刻表をご覧ください。

●タクシーで約15分

